

平成25年度

創立34年



安積三小 学校だより

三しょうの丘 No.30

(承認 賞賛 奨励)

平成26年 3月20日

安積第三小学校

●●●●● 祝 卒業 ●●●●●

温かい春の光が那須連峰を包み、この安積の地にも芽吹きの季節が巡ってきました。学校周辺のあぜ道には、あちこちで柔らかな草の芽が顔を出しています。ここ安積第三小学校にも旅立ちの時がやってきました。82名の卒業生のみなさん。伝統ある安積第三小学校のご卒業おめでとうございます。心からお祝いいたします。

3月11日、忘れもしない大地震が東北地方を襲いました。屋根瓦や壁、道路が壊れ、本当に大きな被害を受けました。家庭でも学校でも水が出なくなり、また、余震のために眠れない日が続きました。

しかし、この災害を通して、私たちは、多くのことを学びました。かけがえのない命の尊さ、お金では買えない人の真心。地震によって壊れたものや失ったものもありますが、支えあう心や、希望をもって強く生きようとする心の絆がますます強くなりました。そして、何よりも、今、生きているこの命に感謝することができました。

保護者の皆様、幼い頃、ちょっと目を離すとどこかへとんでいき、風邪をひいた、熱を出したといっ
ては心配をかけていた子ども達が、こんなにも大きく成長しました。そして、一人前に親に口ごたえを
する存在にもなりました。これからますますなまいきな言動をするかと思いますが、それは人の愛情や
ぬくもりを確かめるための表現なのかもしれません。真正面から、やさしく、しっかりと受け止めて欲
しいと思います。

この6年間、大切なお子様をお預かりし、教職員一同、誠心誠意努力してまいりましたが、至らぬ点
もあったことと思います。いつも本校の教育に温かいご理解やご支援をいただきましたこと、心より御
礼申し上げます。

巣立ちゆく6年生のみなさん、お願いがあります。それは「いつでも笑顔で挨拶のできる人であって欲しい」ということです。人と人が共に生きる社会で、大切なものの一つが「挨拶」です。

「挨拶」は相手への思いやりの心です。「挨拶」は人の心を和ませる一番短い言葉です。

「挨拶」はほんの少しの努力で誰でも日本一になることができます。

これから進む中学校。新しい環境、新しい先生、新しい教科、不安なこともあると思います。でも心
配はいりません。82名の気のいい仲間がいるからです。担任の先生からいただいた言葉を心の支えと
して、みんなで励ましあいながら頑張っていってください。

巣立ちゆく卒業生に1篇の詩を贈ります。

生きていく

生きていくことがつらい

生きるということが苦しい

そう思った時

人間としての本当の歩みが始まる

小学校を巣立っていくということは

人間として生きていくための

苦しい出発の始まり

でも 嘆くことはない

あなたには羽根を休められる場所がある

それは 母校

あなたが育ったところ

あなたが学んだところ

そこには

あなたと喜びや悲しみを分かち合い

あなたを叱り

共に泣いてくれた人がいる

本当に羽根を休めたくなったら

いつでも 帰ってくるがいい

「生きる」ということを学んだ教室が

たしかに そこにあるのだから

生きていくことを

一緒に考えてくれた人が

たしかに そこにいるのだから

